



2011年10月15日発行（隔月刊）



う 羽 化 か

ISSN1880-8646
2011年10月
第 88 号

横 浜 漢 点 字 羽 化 の 会
〒231-0851 横浜市中区山元町2-105 Tel 045-641-1290
発行責任者 代 表 岡 田 健 嗣
編集責任者 木 下 和 久



目 次

漢点字の散歩 (27) (岡田健嗣)	1
点字から識字までの距離 (84) (山内 薫)	11
東京漢点字例会報告とわたくしごと (木村多恵子)	17
東京漢点字学習会報告 (菅野良之)	22
ご報告とご案内	26
漢文のページ	27
漢点字講習用テキスト(初級編・第 回)	30
編集後記 (木下和久)	31

漢点字の散歩 (二十七)

岡田 健嗣

漢点字紹介 (十)

4. 漢点字のご紹介

⑦ 傍側基本文字



漢点字の開発は、漢字の構成を点字の符号で表そうという試みです。創案者の川上泰一先生は、漢字を構成するパーツである部首を点字の符号に当てはめて、「基本文字」と位置づけることから始められました。この作業は、漢字の構成上の分類である「六書」に沿って進められました。このようにして、多くの漢字が点字符号で表されることになりました。今回ご紹介するものが、この「基本文字」の最後です。

「傍側」とは耳慣れない言葉です。それもそのはずで、川上先生がお作りになった造語です。

「傍側基本文字」は、主に漢字の傍の位置に配置される部首です。つまり何時も傍らにあると意味で、こう呼ばれます。この漢点字符号は、一マス目に「𠄎、𠄏、𠄐」の符号が置かれて、二マス目に終点と点字符号が置かれます。これが部首となって他の漢字を構成しますが、そのときは、その点字符号が部首を表しま

す。またこの文字の多くは、単独にも文字として用いられませんが、なかにはあまり単独には用いられない文字も幾つかあります。

この文字の近似文字は、一マス目に「𠄎、𠄏、𠄐」の符号が置かれます。ここでは基本文字の直後にご紹介します。

(1) 𠄎 離 り はなれる はなす

鳥が鳥もちなどに捕らえられる形を表す文字です。現在はいあまり使われませんが、「つく、かかる」という意味もあります。傍の隹は「ふるとり」と呼ばれて、鳥を象っています。漢点字では、「𠄎」で表されます。「𠄎」でふるとりを表します。

例… 𠄎 雄 𠄎 雅 𠄎 雀 𠄎 集
熟語… 距 𠄎 (距離) 別 𠄎 (別離)

(2) 𠄏 及 キュウ およぶ

人の後ろを追って、背に手が届くことを表す文字です。「およぶ」とはやつと手が届くこと、そこから「および」と並列に並べる意味を表します。漢点字では、「𠄏」で表されます。またこの漢点字符号「𠄏」は、「報、服」の傍、「ふくづくり」をも表します。

例… 𠄏 扱 𠄏 吸 𠄏 級 𠄏 報
熟語… 𠄏 第 (及第) 𠄏 級 (言及) 𠄏 服

(3) 乃 ダイ ナイ すなわちの
及の近似文字です。弦を外した弓を象っています。
漢文訓読では「もし、すなわち」と訳されます。ひらがなの「の」は、この文字の草書体からできました。
漢点字では、「𠄎」で表されます。

例… 携 𠄎 秀 𠄎 孕 𠄎

(4) 亦 𠄎 エキ ヤク また わき
人が立った両腋に手を差し入れて支える形を象った文字です。「また…、…もまた」と用いられます。漢点字では、「𠄎」で表されます。

例… 跡 𠄎 蚕 𠄎 変 𠄎 恋 𠄎

(5) 袁 𠄎 エン
ゆったりとした衣服を身に着けた形を象った文字です。漢点字では、「𠄎」で表されます。

例… 園 𠄎 猿 𠄎 遠 𠄎

(6) 又 𠄎 ユウ また
右手を象った文字です。「また」と読んで、ふたたびの意味に用いられます。漢点字では、「𠄎」で表されます。

例… 取 𠄎 収 𠄎 奴 𠄎 桑 𠄎

(7) 干 𠄎 カン ほす ふせぐ
身を守る盾を象った文字です。その盾で、守り防ぐ

という意味に用いられました。現在では乾と同様に、「ほす、かわく」の意味に使用されます。漢点字では、「𠄎」で表されます。

例… 刊 𠄎 幹 𠄎 汗 𠄎 竿 𠄎 肝 𠄎
熟語… 拓 (干拓) 𠄎 糝 (干菓子) 𠄎

(8) 干 𠄎 ウ
干の近似文字です。先の曲がった刀を象った文字で、大きくて先が曲がったものを意味します。漢点字では、「𠄎」で表されます。

例… 宇 𠄎 芋 𠄎 迂 𠄎 孟 𠄎

(9) 朱 𠄎 シュ あかい あけ
鉱物から取った顔料の鮮やかな赤い色を表す文字です。古代の人々には、不死の色と信じられました。漢点字では、「𠄎」で表されます。

例… 株 𠄎 殊 𠄎 珠 𠄎
熟語… 朱肉 (朱肉) 𠄎 に交われば 𠄎 くな

る (朱に交われば赤くなる)

(10) 其 𠄎 キ み それ
農具の箕を象った文字です。四角いものを表します。「それ、その」と、指示詞として用いられます。

漢点字では、「𠄎」で表されます。
例… 基 𠄎 旗 𠄎 期 𠄎 棋 𠄎

つける形がしるしをつける形に通ずるところから、「しるし」、「判子」を表すようになりました。漢点字では、「」で表されます。「」は、この文字の旁である日(ふしづくり)を表します。

例… 節 却 即 命

熟語…  (印字)  (印象)

(17) 申 シン もうす さる

稲妻を象った文字です。神を意味しました。稲妻が神の意向を伝えるところから、「もうす」と用いられるようになりました。また、干支の「さる」としても用いられます。漢点字では、「」で表されます。

例… 神 伸 紳 暢

熟語… 請 (申請)  (申告)

楽 (申楽)

(18) 曳 エイ ひく

両手でものを引く形を表す文字です。ものを引っ張ることを意味します。漢点字では、「」で表されます。

例… 洩

熟語… 航 (曳航) 挽 競  (挽曳競馬)

(19) 臣 シン おみ

上を見上げる目を象った文字です。元は神に仕える

人を表しました。後に、仕える人・家来を意味するようになりました。漢点字では、「」で表されます。

例… 臥 監 蔵 姫

熟語…  (大臣)  (臣下)

(20) 巨 キョ おおきい

臣の近似文字です。直線を測ったり線を引いたりするための矩(さしがね)を象った文字です。漢点字では、「」で表されます。

例… 拒 渠 距 矩

熟語…  (巨大)  (巨人)

(21) 毛 モウ け

垂れた髪の毛を象った文字です。体毛全般を言い、獣の毛、地表の草を言います。漢点字では、「」で表されます。

例… 尾 耗

熟語… 髮 (毛髮) 純  (純毛)

(22) 曾 ソウ かつて すなわち

食物を蒸す容器を象った文字です。漢点字では、「」で表されます。この文字の旧字体である「曾」の漢点字符号は「」で、この文字の近似文字です。

例… 僧 層 増 憎 贈

(23) 且 ソ ショ かつ

組に食物が載った形を象った文字です。食物の載った俎を、祖先の霊に捧げることを意味します。漢点字では、「𠄎𠄎」で表されます。

例… 宜 祖 租 粗 組

阻

(24) 也 ヤ なり や かな

普通「や、かな、なり」と、終助詞として用いられます。注ぎ口のある水差を象った文字です。漢点字では、「𠄎𠄎」で表されます。ひらがなの「や」は、この文字の草書体に由来します。

例… 施 他 地 弛 池

(25) 采 サイ とる いろ

草木から色を取ることを意味する文字です。美しい彩りを表します。漢点字では、「𠄎𠄎」で表されます。

例… 彩 採 菜

(26) 田 ショウ

荘の略体として用いられた文字です。「おおい、おごそか」の意味があります。わが国では、「庄屋」として、地域を管理する役目を指します。漢点字で

は、「𠄎𠄎」で表されます。

例… 粧

熟語… 園 (庄園) 屋 (庄屋)

(27) 堯 ギョウ たかい

中国の、伝説上の帝王の名です。徳高い王で、聖天子と呼ばれます。そこから「たかい」の意味で用いられます。漢点字では、「𠄎𠄎」で表されます。旧字体の「堯」の漢点字符号は、「𠄎𠄎𠄎」です。

例… 暁 焼 繞

(28) 專 セン もつばら

袋に入れたものをひたすら打ち固める様子を表す文字です。その作業に専念するところから「もつばら」という意味に用いられます。また、打ち固めた形が丸いところから、「まるい、ころがる」という意味にも用いられます。漢点字では、「𠄎𠄎」で表されます。

* この文字を含む文字の新字体は、全て略体です。

例… 団 (團) 転 (轉) 伝 (傳)

熟語… (専門) (専科)

(29) 亭 テイ

高い建物を象った文字です。宿場に設けられた旅宿を表します。漢点字では、「𠄎𠄎」で表されます。

例… 停 亭
熟語… (亭主) (駅亭)

(30) 長 チョウ ながい

髪を長く垂らした老人を横から見た形を象った文字です。老人は、尊敬を受けています。この文字には「ながい」という意味に加えて「人の上に立つ、上に立っておさめる」という意味に用いられます。漢点字では、「𠄎」で表されます。また「髪」の上の部分の影(かみがしら)も、「𠄎」で表されます。

例… 帳 張 脹 髪
熟語… (社長) (長安)

(31) 豆 トウズ まめ

脚のついた器を象った文字です。「荅」と音を通ずるところから、「まめ」の意味に用いられるようになります。漢点字では、「𠄎」で表されます。

例… 短 登 頭 豊
熟語… (大豆) (小豆)

(32) 台 ダイ タイ うてな

「うてな」とは、高い建物の物見台のことです。この文字の旧字体「臺」は、それを象っています。「ダイ」は、物を載せる台や、機械や乗り物を数える単位

として用いられます。漢点字では、「𠄎」で表されます。

例… 始 治 胎 殆
熟語… (風) 台風) 所 (台所)

(31) 司 シ つかさどる

神にお伺いを立てて、神意を聞く様子を表す文字です。そのような役割とそれに当たる人を意味します。漢点字では、「𠄎」で表されます。

例… 伺 嗣 詞 飼 視
熟語… (司会) (司法) (司法)

直(司直)

(33) 旨 シ むね うまい

ご馳走を器に取り分ける形を象った文字です。「うまい」は料理の味がよいこと、「むね」はその内容です。漢点字では、「𠄎」で表されます。

例… 詣 指 脂 嘗
熟語… 趣 (趣旨) (主旨)

(34) 改 カイ あらためる あらたま

災いを祓つ正常な状態に復することを表す文字です。「あらためる、あらたまる」とは、元へ戻す、検査する、新しいものと取り替えるという意味です。漢

点字では、「𠄎」で表されます。漢点文字符号「𠄎」は、父(ボク、部首の通称は「ノ文」)を表します。

例… 𠄎救 𠄎教 𠄎激 𠄎故 𠄎敏
熟語… 𠄎革(改革) 𠄎札(改札)

(35) 𠄎刀 トウ かたな

片刃の刀を象った文字です。斧や矛とともに武器として用いられました。漢点字では、「𠄎」で表され

例… 𠄎契 𠄎初 𠄎召 𠄎切 𠄎刃
熟語… 𠄎(日本刀) 𠄎(刀身)

(36) 𠄎刃 ジン やいば は

刀の近似文字です。刀の刃が鋭く光った様子を象った文字です。刃物の「やいば、は」を意味します。漢点字では、「𠄎」で表されます。

例… 𠄎忍
熟語… 𠄎(白刃) 諸 𠄎(諸刃)

(37) 𠄎劍 ケン つるぎ

両刃の武器を表す文字です。刀は片刃、劍は両刃の刃物です。漢点字では、「𠄎」で表されます。漢点文字符号「𠄎」は、立刀を表します。

例… 𠄎刑 𠄎劇 𠄎剛
熟語… 𠄎(刀劍) ペンは 𠄎よりも強し

(ペン)は劍よりも強し)

* 立刀を表す漢点文字符号は「𠄎」だけでなく、「𠄎」でも表されます。「𠄎」の例は「𠄎刈・𠄎刊・𠄎判・𠄎削刺」、「𠄎」の他の例は「𠄎別」などです。

(38) 𠄎段 ダン

層をなす鉱石の模様と、それを長い柄の矛で打つて、金属を取り出す様子を象った文字です。「ダン」とは、層になった重なりを言います。漢点字では、「𠄎」で表されます。「𠄎」は受(シユ、部首の通称は「ル又」)を表します。

例… 𠄎擊 𠄎設 𠄎鍛 𠄎投 𠄎般
熟語… 𠄎落(段落) 階 𠄎(階段)

(39) 𠄎之 シ これ この の

足が先へ進む様子を象った文字です。指示詞の「これ、この」、漢文訓読の際は助詞の「の」として用いられます。漢点字では、「𠄎」で表されます。

例… 𠄎芝

(40) 𠄎乏 ボウ とぼしい

之の近似文字です。物資の不足を意味します。漢点字では、「𠄎」で表されます。

熟語… 𠄎(欠乏) 耐 𠄎(耐乏)

(41) 𠄎尚 ショウ たつとい なお



神の微かな意向が現れる様子を象った文字です。「たつとい」とは、神意に対する畏敬の意味です。漢点字では、「𠄎𠄎𠄎」で表されます。

- 例… 𠄎𠄎𠄎に嘗 𠄎𠄎𠄎掌 𠄎𠄎𠄎賞 𠄎𠄎𠄎常 𠄎𠄎𠄎党
 熟語… 𠄎𠄎𠄎 (和尚)

* 「尚」が他の文字の構成要素となるとききの漢点字符号は、「𠄎𠄎」です。

(42) 𠄎𠄎皮 ヒ かわ

獣の皮を剥ぐ様子を象った文字です。古代、獣の皮は、衣服・住居・武具の貴重な材でした。ものの表面、うわつらの意味としても用いられます。漢点字では、「𠄎𠄎𠄎」で表されます。

- 例… 𠄎𠄎𠄎波 𠄎𠄎𠄎破 𠄎𠄎𠄎彼 𠄎𠄎𠄎疲 𠄎𠄎𠄎被
 熟語… 𠄎𠄎𠄎 (皮肉) 𠄎𠄎𠄎革 (皮革) 外 𠄎𠄎𠄎
 (外皮)

(43) 𠄎𠄎巴 ハ ともえ

器物の把手を象った文字です。また蛇がとぐろを巻いている様子を表しているとも言われます。漢点字では、「𠄎𠄎𠄎」で表されます。

- 例… 𠄎𠄎𠄎把 𠄎𠄎𠄎肥 𠄎𠄎𠄎邑
 熟語… 𠄎𠄎𠄎 (巴里) 𠄎𠄎𠄎つ 𠄎𠄎𠄎 (三つ巴)

(44) 𠄎𠄎非 ヒ あらず

すき櫛を象った文字です。髪をくしけざる齒の並んだ形を表します。現在では「あらず」と読んで、「そむく、はずれる」の意味に用いられます。漢点字では、「𠄎𠄎𠄎」で表されます。

- 例… 𠄎𠄎𠄎俳 𠄎𠄎𠄎排 𠄎𠄎𠄎輩 𠄎𠄎𠄎悲 𠄎𠄎𠄎緋
 熟語… 𠄎𠄎𠄎道 (非道) 𠄎𠄎𠄎礼 (非礼)

(45) 𠄎𠄎不 フ ざ しからず

元は花の萼を象った文字ですが、現在は、「…ざ」と読んで、否定形として用いられます。漢点字では、「𠄎𠄎𠄎」で表されます。

- 例… 𠄎𠄎𠄎杯 𠄎𠄎𠄎否
 熟語… 𠄎𠄎𠄎眠 𠄎𠄎𠄎 (不眠不休) 𠄎𠄎𠄎合理 (不合理)

(46) 𠄎𠄎冊 サツ

古代の竹簡や木簡を連ねた書物を象った文字です。「サツ」は、現在も書物を数える単位です。薄いもの・平たいもの・揃えられているものを表します。漢点字では、「𠄎𠄎𠄎」で表されます。同様の意味の「扁」の漢点字符号は「𠄎𠄎𠄎」ですが、部首となるときは、「𠄎𠄎」で表されます。

- 例… 𠄎𠄎𠄎冊 𠄎𠄎𠄎編 𠄎𠄎𠄎偏 𠄎𠄎𠄎遍
 熟語… 𠄎𠄎𠄎 (冊子)

(47) 亡 ボウ ない

死者を表す文字です。「ない」とは、死亡して姿が消えることです。「にげる、ほろびる」の意味にも用いられます。漢点字では、「𠄎𠄎𠄎」で表されます。

例… 忙 忘 望 妄 盲

熟語… 命 (亡命) (滅亡)

(48) 了 リョウ おわる

ものの扱れる様子を象った文字です。「おわる、おえる、わかる」の意味に用いられます。漢点字では、「𠄎𠄎𠄎」で表されます。

例… 亨

熟語… (完了) 終 (終了)

解(了解)

(49) 哉 サイ はじめる かな や

戦いの前に、武器の戈(ほこ)を清めて先勝を祈願することを表す文字です。この儀礼の後に出陣するところから、「はじめる」の意味が生じました。また終助詞の「かな、や」としても用いられます。漢点字では「𠄎𠄎𠄎」で表されます。「𠄎𠄎𠄎」の漢点字符号は、この文字の左下にある口を除いた、十と戈の構えを表します。

例… 裁 裁 載 戴

(50) 呂 ロ リョ

銅塊が二つ並んだ形、あるいは並んだ背骨を象った文字と言われます。漢点字では、「𠄎𠄎𠄎」で表されます。

例… 宮 宮 侶

(51) 牙 ガ ゲ きば

上下相交わる獣の牙の形を象った文字です。爪と牙は、獲物の捕捉や外的との戦いに欠かせない武器です。漢点字では、「𠄎𠄎𠄎」で表されます。

例… 芽 雅 邪 穿

熟語… (象牙) 城 (牙城)

(52) 以 イ もって おもう

田畑を耕す耜に由来する文字です。「もって、よつて」、また「おもえらく」と用いられます。漢点字では、「𠄎𠄎𠄎」で表されます。ひらがなの「い」は、この文字の草書体に由来します。

例… 似

熟語… 伝 (以心伝心)

(53) 至 シ いたる はなはだ

矢を射て占い、矢の到達したところを神聖な場所と定めて、そこに重要な建物を建てました。「いたる」とは、矢の至ったところという意味です。「自：至」は、「𠄎𠄎𠄎」から「𠄎𠄎𠄎」を意味します。漢点字では、「𠄎𠄎𠄎」で表されます。

例… 𠄎屋 𠄎室 𠄎致 𠄎室 𠄎到
熟語… 𠄎極 (至極) 𠄎難 (至難)

(54) 𠄎予 ヨ あらかじめ われ

神意をはかることを表す文字です。神意によって将来が決定されることから、「あらかじめ」と用いられます。また「われ」と、一人称を表す文字としても用いられます。漢点字では、「𠄎」で表されます。

例… 𠄎序 𠄎野 𠄎預
熟語… 猶 𠄎 (猶予) 𠄎 (予見)

(55) 𠄎矛 ム ほこ

予の近似文字です。長い柄のあるほこ(武器)を象つた文字です。漢点字では、「𠄎」で表されます。
例… 𠄎茅 𠄎柔 𠄎務
熟語… 𠄎盾 (矛盾)

(56) 𠄎皿 ベイ さら

浅く平たい器を象つた文字です。水を入れて水鏡としたり、供物を盛って神に供えたりしました。漢点字では、「𠄎」で表されます。文字の構成では、下部に配置されます。

例… 𠄎益 𠄎塩 𠄎監 𠄎盛 𠄎盤

(57) 𠄎血 ケツ ち ちぬる

皿の近似文字です。皿の中に犠牲の動物の血を注いだ形を象っています。漢点字では、「𠄎」で表されます。

熟語… 𠄎液 (血液) 𠄎鮮 (鮮血)

(58) 𠄎旦 タン あさ あした

雲の上に日が昇っている形を象つた文字です。夜の明けるときを意味します。古代の政は早朝に行われました。漢点字では、「𠄎」で表されます。

例… 𠄎但 𠄎担 𠄎胆
熟語… 𠄎 (元旦) 𠄎 (一旦)

(59) 𠄎甘 カン あまい あまえる あ

錠をかけて封じ込める形を象つた文字です。元は首枷のような刑具を意味しましたが、後に甘草を表すところから、「あまい」という意味に用いられるようになりしました。漢点字では、「𠄎」で表されます。

例… 𠄎紺 𠄎甜 𠄎某 𠄎箝
熟語… 𠄎 (甘味) 𠄎 (甘藷)

(60) 𠄎辰 シン たつ

貝のハマグリ(蜃)を象つた文字です。ハマグリが足を出して動くことを表します。現在では干支の五番目の「たつ」として用いられます。漢点字では、「𠄎」で表されます。

例… 𠄎辱 𠄎唇 𠄎振 𠄎震 𠄎農

以上で「基本文字」のご紹介は終わります。これらを組み合わせせて、新たな文字が作られます。

点字から識字までの距離（八十四）

南相馬への支援（二）

山内 薫（墨田区立あずま図書館）

さて第一回目の一〇冊は以下のような経緯で送られた。

「全ての本を一〇冊全部を購入できずに申しわけないのですが、今回購入分のうち、一タイトルは『はじめてよむ童話集（三） ふしぎな話』（大月書店）で、これは編集の野上暁さんから推薦いただきました。

（同じ支援チームで一緒にさせていただいており、先日もし一緒に福島市に参りました。）五つほどお話が入っていますので、一つずつ読んであげてほしいです。

『はじめてよむ童話集（一） わらっちゃやう話』もよいのですが、最後に地震の話なので・・・。その他は『そら、にげろ』（赤羽末吉作、偕成社、文字なし絵本）、『いいからいいから』（長谷川義史、絵本館）、『トリゴラス』（長谷川集平）また、『一四ひきのおつきみ』（いわむらかずお、童心社）も迷っています。季節感のあるものもあるといいですよ。ストック本からは、十八冊そろいませんが、ぐりとぐらシリーズやエリック・カールの絵本などを選んで送ります。Wさんのメールにあった『だいくとおにろく』

（松居直文、赤羽末吉絵、福音館書店）のような昔話もなるべく見つけ出します。紙芝居は、皆同じものは入りませんが、山内さんも楽しいとおっしゃってくださいました『おおきくおおきくおおきなあれ』も一、二冊ストックありますので入れます。紙芝居は私もよく障害のある子どもたちなどにも読みますが、『みんなでぼん！』『ごきげんのわるいコックさん』『そんなのいらぬ！』などはとても楽しんでくれます。」

それに対するWさんの見解は

「『トリゴラス』は碁で言う「あとで効いてくる石」というやつだと思えます。素知らぬふりをして、はじめに混ぜていて、この本だけちよつと変だな、なんでこの本なんだろうと、それがあとから効いてくるという感じを私は持っています。「もうめちやくちやや。まち、ぐちやくちやや。もうわやくちやなんや」（確かそうだと思えます。今手元にないので確かめることが出来ません。）」を大きな声で読める日がいづくのでしよう。のちに送る二冊にこの本を選ぶと違和感がより増します。はじめからしらばっく置いて置いてもませんか。きつと必要になる日が来ます。好みの問題かも知れませんが、『一四ひき』はなんと言っても『ひっこし』だと思えます。今仮設住宅に引っ越してきて、辛いけど、これからどうなるんだろうという、ワクワクもほんの少しあって、その気持ちをくすぐつ

てみたいと思います。同じように展開が全く読めない
楽しさと言えば、『ぐりとぐらシリーズ』では、はじめ
に出た『ぐりとぐら』だと思えます。田舎の森の探検
という感じがよく出ていて、子どもたちの環境にぴつ
たりなのではないかと思えます。子どもは大人に育て
られているということは一方で真実ですが、自然を含
めた地域でも育てられているのもまた一方の真実だと
思うのです。」

このお月見に関しては、Wさんがバイクで福島から
相馬市に峠を越えて入ったときの話が印象的だった。
夜中に峠を越えると気持ちの良いひんやりした空気に
触れたというのだが、そのことを地元のお年寄りに語
ったところ、大津波以降、地面が湿っぽくなり、夜の
空気も湿っぽくなってしまつて今までの空気とは全く
違つてしまつたと話されたそう。従つて以前のような
なお月見が出来るかどうかということにも配慮が必要
だと話された。

Kさんの次のようなメール「絵本と心のケアの段階
として、安心↓楽しむ↓再体験・客観視↓表出↓克服
・回復という過程があるかと思えます。今までほとん
ど安心して遊ぶという段階と考へて本を選んでしまし
た。童話のよみ聞かせや『心をピンにとじこめて』
(オリヴァー・ジェファーズ作、三辺律子訳、あすな
ろ書房) や、『トリゴラス』などは、その次の段階

にそろそろ時期が来たという選書になりますね。いず
れも人が近くで寄り添っていることが大事ですね。」
に對して、Wさんは「安心↓楽しむ↓再体験・客観視
↓表出↓克服・回復というマニュアルはそれはそれと
して優れていると思うのですが、子どもの自然治癒力
により、また体験や家族の構成により、いろいろな段
階の子どもたちがいるのだと思うのです。安全・安心
・自信を育むのは先行く仲間としての大人ですが、大
人の思惑を超えて、子どもは発達して行くというのが
児童図書館で、また生活保護で巡り会つた子どもたち
や、自分の子育て経験の中で、児童養護施設とともに
生活する子どもたちが教えてくれたことです。」と
応じていた。

そして、いよいよ本が發送された。

「今日、南相馬市一八箇所分一〇冊ずつ、原町保健セ
ンターにお送りしました。共通『そらにげろ』『トリ
ゴラス』『はじめて読む童話集(三)ふしぎな話』、紙
芝居は送つたリストのタイトルのものを各一、二冊、
現在購入してストックしている状態ですので、それを
一八箇所にはらしました。残り五冊は、ユニセフや偕
成社、出版対策本部からの寄贈本の中から、ぐりとぐ
ら、エリック・カール、昔話系をなるべく選んでお送
りました。内容は一八箇所ばらばらになります。この
中には、Wさんが読まれてみてうまく沿わないものも

入ってしまったかもしれないませんが、資金的に一〇冊全部の購入は厳しいので、こうした送り方をお許しください。すこし小さな絵本が多く、読み聞かせには不都合もあるうかと思えます。十分ご要望に応じきれていないと思いますが、今回はこれでご一杯かと。次回は今回の読み聞かせの様子から、ぜひこの本をとリクエストしてください。Wさんのご希望に、自ずと沿うと思えます。」

現地に本が届くと原町保健センターの保健師のOさんからKさんに下記のようなメールが届いた。

「Kさま

絵本たちが私に優しく笑いかけてくれました。

昔、娘や息子に少し読んでやった絵本もあって、すごくなつかしかったのと、見たこともない絵本を手にとらせていただいたのですが、すごくきれいな絵だったり、うーんとうならせてもらう内容のものだったり・・・とにかく、わくわくしてしまいました。

絵本の力はすごいです。

今週、Wさんが仮設集会所のサロンで読んであげて、袋包みを届けてくださいました。

まだ、お届けできていないところへは、私が責任を持って・・・！少し紙芝居など読ませていただいで、お届けしてきたいと思えます。

本当に、素敵な絵本をありがとうございます。

わくわくして、肩の力が抜けてきます。絵本で、やっぱりすごいです。

今後も、もう少し・・・お手数をおかけいたしますが、よろしくお願いいたします。」

その後、南相馬での一週間のボランティア活動を終えたWさんから電話がかかってきた。八月上旬に送られた本の中に林明子の『おふろだいすき』や『ぐりとぐらのかいすいよく』が混じっていたが、仮設住宅の膝を曲げてやっと入れる小さなお風呂で、日々生活している親や子どもに大きなお風呂の絵本はどうか？放射線物質のおかげで外で遊ぶことも出来ず、もちろん海で泳ぐことの出来ない状況に置かれている子どもに海水浴の本はどうなのか？との疑問を呈された。確かに現時点で例えば津波の出でくる絵本などは避けた方が良さだろう。親と子が一対一で読むということであればまだしも、今回の絵本は複数の子どもや大人に読み聞かせをするという前提で送られるものなので、選書に当たっては細心の注意が必要であろうというのが、Wさんと私の見解でそのことを巡って是非三人で会って話をしたという事になった。Wさん、Kさん共に立川近辺に職場と住居があるとのこと、八月二四日に立川市立中央図書館の四階子どもコーナーで待ち合わせる事になった。その時に立川で話し合われ

た内容は以下のような内容だった。

・八月に絵本が届いたのは九日で仮設住宅には一日前後に届いているので、今後毎月一日に本が届くようにしよう。

・紙芝居の「おおきくおおきくおおきくなあれ」や「みんなでぼん」「ごきげんのわるいコックさん」等は保育園などで大勢の幼児のまえでやるには良い紙芝居だが、紙芝居を今までやったことのない若い生活支援相談員が大人も子どももいる仮設住宅の集会所でやるにはどうか？むしろ昔話や宮沢賢治など郷土に関わり大人もある程度楽しめるものが良いのではないか。

・当面一〇〇冊を目標にし、そのうち絵本が六〇冊、紙芝居が一〇冊、その他が、幼年ないし児童文学という構成ではどうか。

さしあたって次回九月に送る本として『注文の多い料理店』の紙芝居（童心社）、長新太の絵本では傑作『ごろごろにやーん』（福音館書店）を是非ということになった。また、前回送る予定になっていた『いいからいいから』も加えて三冊送る予定にした。

その作家の一番の絵本を選んで送ろう、全体の一〇〇冊をなぜ選んだのかということ、仮設住宅の集会所で読み聞かせする中で検証していこう話になったが、Wさんの意見としては、例えばモーリス・センダ

ックの絵本といえば『かいじゅうたちのいるところ』（富山房）が自他共に認める一番の本ということになるだろうが、仮設住宅に送る本としては、むしろ会話を誘発するような『あなはほるとこおっちちるとこ』（岩波書店）のほうが相応しいのではないか。南相馬市には二〇〇九年一二月に開館したばかりのすばらしい中央図書館があり、しっかりと選書された多くの絵本や児童文学があるので、それがバックグラウンドとしてあると考えて、仮設住宅に住む子と親のためと、より狙いを絞り込み、より自由な、選書を考えようという話になった。

ところで、現地には様々なボランティアなどが入って活動しているが、Wさんはこんなエピソードを送って下さった。

「私は今回、自分の至らなさを噛み締めながら活動をおこなっていました。みんな「ふるさと」を歌っている時、参加されている方が「私のふるさとはなくなってしまった」と叫び、泣き出されました。このように良かれと思っておこなっていることが、人のこころの傷を開けてしまうこともあることを、前回と比べてなお一層私に教えてくれました。とりわけ、南相馬市は津波で被害が出た地域に加え、立ち入り禁止の地域が約三分の一あり、浪江町など東京電力福島第一原子力発電所により近い方も南相馬の仮設住宅に入居されて

いるようです。被災地の外から支援に入る私たちには良いと思われ、ことを本当にそれで良いのかと謙虚に検証して行く作業が問われています。被災を受け続けられている方々のお話に謙虚に耳を傾けることが南相馬で援助に取り組む者として必須の要件となっているのです。」

また「私は仮設住宅の集会所のグループワークで知り合った膝痛のある方にリハビリという治療方法があると案内しました。南相馬市立総合病院にリハビリ科があるのはネットで知っていたからです。理学療法士に膝のリハビリを受けるのもひとつの手段ですとお話ししたのです。しかし、東京電力福島第一原子力発電所建家の爆発で理学療法士が一人もいなくなりました（その人たちを責めることは出来ません。もし仮に私がありませぬ）は知りませんでした。終わったあと、保健センターに帰り記録を制作している時に、Oさんが、言いにくそうに、しかしはつきりと、状況を説明してくれ、Wさんそれは東京の常識です。ここは東京ではありません。とおっしゃいました。南相馬まで行き、三月一日以降日々最大限の力を出して仕事をしている人々の足を引っ張ってしまったことに申し訳がなく、いたたまれませんでした。」

さて、九月に送る予定だった紙芝居の『注文の多い

料理店』は現在品切れで入手出来ないことがわかった。そこで替わりの紙芝居を何にするかということ、Wさんが提案したのは『かっぱのすもう』（渋谷勲・脚本、絵：梅田俊作、童心社）だった。その理由としてWさんは以下の四点を挙げています。

一、お米の話。福島はお米の産地です。放射線（風評も含む）で売れるかどうか、いま不安を感じながら、田んぼでお米を作られています。

二、笑い話。笑い飛ばすことをしたいです。

三、絵がいいし、文もいい。読んでいて楽しいです。

四、南相馬の言葉で演じられます。少し、アドリブ心があれば地元の方なら可能です。わたくしは『なげえはなしこしかへがな』（作：北彰介、絵：太田大八、銀河社）でお読みしたように東北の言葉のような感じで演じます。

この紙芝居と前回間に合わなかった『いいから、いいから』と『ごろごろにゃーん』を九月一日に合わせて発送した。

WさんからKさんに『かっぱのすもう』は大受けだったという電話がかかってきた。

ところで、紙芝居を演じる際に舞台があったらという話がWさんからあり、いくつか当たったところ、大阪のわんぱく文庫のTさんから下記のようなメールが

届いた。

「家に、以前、家庭文庫をしていた時の舞台がありま
す。来てくれていた子のおじいちゃん、あちこちの
図書館などを見て歩いて、工夫して、制作してくださ
ったものです。今は、使うことがないのですが、図書
館の催しに持っていくことがあるかなしかです。この
舞台のもとになってくれたM君は、中学二年の夏休み
に交通事故で亡くなりました。彼が文庫のために缶に
貯めてくれていた貯金箱も遺品として残り、二〇年た
っても、使えないまま、今も私の机の前に置いていま
す。この舞台が、福島の子どもたちに役立つなら、ど
んなにか、救われる思いです。お母さんにも、お知ら
せしたら、喜んで下さると思います。少し角がはげて
いるので、今日、ペンキを塗っておきます。これでよ
かったら、送り先を教えてください。」

そこでWさんの自宅にペンキで修理された紙芝居舞
台が届いたのだった。それに対してWさんが出したメ
ール。

「昨日紙芝居の舞台が届きました。ありがとうございます
ます。思いが詰まった舞台を胸に抱えて、九月四日南
相馬市に向かおうと思います。大切な手紙を携えて。
だって、お手紙を読むと、宅配便で送ることは出来な
くなりしました。私にとって少々重いですが、こめられ
た命の重さに替えることが出来ません。福島駅からバ

スに揺られて相馬に、相馬のオートバイ屋さんに預け
たバイクの荷台に乗せて南相馬の原町保健センターへ
と運んで行かせて頂きます。当面はきつと鹿島区社会
福祉協議会の生活支援相談員の方々と車で各仮設住宅
集会所を飛び回ることでしょう。そのうちどこかに落
ち着き場所をおのずと見つけてくれることでしょう。

最後は素敵な南相馬市中央図書館の読み聞かせコーナ
ーかも知れません。いっぱいの子どもたちに見つめら
れ仮設住宅の日々を終えたあとは。何年先のことなの
でしょうか。八月一日から各仮設住宅を回り出した生
活支援相談員。その一人のTさんは（二〇代前半のお
兄さんです。背が高く笑顔が素敵です）、八月一日
に配り始めた一〇冊の本の中の紙芝居を、その日から
子どもたちに読み出したそうです。一二日のグループ
ワークの現場で、そのことを同僚のケアワーカーの
方から聞きました。舞台がないので抜き差しが難しい
と本人は言っていました。きつと喜びます。福島市か
ら伊達市の山の中に入り、バスが行く村街道沿いを
宇多川（うだがわ）が太平洋へと流れ下ります。霊山
（りょうぜん）というところを分水嶺とした清流で
す。霊山より西は石田川が流れます。途中で広瀬川に
合流し、やがて阿武隈川に入ります。バスから遙か下
を流れる川は澄んで、上から大きな岩魚の陰を見るこ
とが出来ます。バスから手を振ると川原でこちらを眺

めていた中学生と思われる男の子たちが手を振り返してくれず。M君が思いを馳せていた旅先は、山なのでしょいか、川なのでしょいか、それとも海なのでしょいか。きつと見守ってくれていると思うのは残された私たちの勝手な思いなのでしょいか。沖縄では、こういう気持ち「肝苦しい」（ちむぐるさー）と表現すると聞きます。

この思いを南相馬に暮らし、また働く方々へと届けさせて頂きます。ありがとうございます。Tさん。M君のお母様には、まず、わたしから、明日、葉書をお届けします。」

そしてWさんが数日後に出したメール。

「お元気でしょいか。暑さの中にも秋の気配を少し感じさせるようなすがすがしい風が吹きます。ご報告するのが遅くなつて申し訳ありませんが、八月二五日に日帰りで南相馬に行く用事が出来、紙芝居の舞台と一緒に旅行をしました。まずは、市民の健康と福祉を守る前線司令部という様相を呈しています原町保健センターの、O保健師さんに舞台を手渡しました。私も一緒に梱包をほどこき、初めて見たのですが、それは立派なもので驚きました。おまけに携帯用に、袋まで付いているとは。Oさんは早速舞台を袋に入れて、肩に担いでいました。それからの行く末は九月四日から訪れる時にわかることになると思います。また、ご連絡させていただきます。」

「東京漢字字羽化の会」例会・講習会報告と

わたくし」と

木村 多恵子

第69回例会 2011年8月10日(水)13:30

15:30 場所 ヒューマンプラザ7階竹芝小ホール

8月第2週から9月第1週までの「花をひろう」の当番の組み合わせを作った。

8月17日の点字印刷をしていただく方を決めていただいた。今回はお一人でお仕事をしてくださることにきまつたが、結果としてお二人で行っていただけただけ。ありがとうございます。

エディタで入力していると、おおよそ4千バイト入力すると、それ以後の文字は入力できない、との提起がなされた。

そこで、4千バイト一杯になる少し手前の、文章の切りのよいところで、Ω（大文字のオメガ）記号を入れて、改行し、行頭から文章を入れることにした。これは、後でΩ記号を外して、文章を繋げることができ

る。この問題については、エディタのマニュアルを調べていた。8月11日現在も、メール交

換によって検討が続けられている。

古語辞典について… 古語辞典に朝鮮語の発音記号について、相談した。この問題も、随時検討しなおすこともあるようだ。

古語辞典の入力は、各自少しずつ進捗状況によって、原本をお持ち帰りになった。

寺山修司の歌集は入力をほぼ終えて校正データが頻繁に交換されている。

横浜で、新会員を募集することにし、10月、11月に渡って3回講習会をするのに対し、東京でも行おうか？との話が出されたが、東京は来春にすることにした。

第70回例会 2011年9月7日(水) 13:30

15:30 場所 ヒューマンプラザ7階竹芝小ホール

「羽化87号」をお配りした。

いつものように「花をひろう」のグループを決めた。

9月21日の横浜での点字印刷を、今月はお一人の方が担当して下さることになった。この9月21日はあいにく15号台風に遭遇してしまったにもかかわらず、お二人が行ってくださった。交通網が絶たれてご苦労をおかけした。ありがとうございます。

「古語辞典」の難解文字の扱い方をまだいろいろ試行錯誤して、よりよいものを作ろうと、皆さんで工夫し、話し合っている。

エディタについては、やはり8月の例会で決めた方法で入力することにした。

* 予告

10月の例会、(第71回) 2011年10月12日(水)
13:30 ~ 15:30、ヒューマンプラザ7階竹芝小ホール
第53回学習会、2011年10月22日(土)、ヒューマンプラザ7階第1会議室

11月の例会、(第72回) 2011年11月9日(水)
13:30 ~ 15:30、ヒューマンプラザ7階第1会議室

11月の学習会(第54回) 2011年11月19日(土)
18:30 ~ 20:30、ヒューマンプラザ第1会議室

12月の例会、(第73回) 2011年12月7日(水)
13:30 ~ 15:30、ヒューマンプラザ7階竹芝小ホール

12月の学習会(第55回) 2011年12月17日(土)
18:30 ~ 20:30、ヒューマンプラザ7階第1会議室

わたくしと

前回、羽化87号(2011年8月発行)でわたしは、自分の編み物体験や、蚕にまつわる子供の頃の思い出を書かせていただいた。何故このような事柄に心

が動いたかについて、もう少し続けさせていただけたい。

わたしは結婚してからも編み物を続けていた。かぎ針にも挑戦し、オリムパスの18番という細いレース糸を使ってみたが、わたしの指先ではきれいに目を拾うことができなかったので、方眼編みで小さなテーブルセンターを編んだが、物足りない。同じメーカーの40番を使うと、目をすくい取ることはできたが、全体として糸が太すぎてゴロついた感じが好きになれず、手頃な素材はないものかと探していた。

そんなあるとき、行きつけのデパートの手芸品コーナーの方が、「新しい夏糸が入りました。これなら目もはっきり出るので、編みややすいのでは？」と、ハマナカシルキのサマーヤーンの中細を紹介してくださいました。

まず試しに一個だけ買って帰り編んでみると、なるほど、大きめの模様によればかぎ針でカーデガンも編めそうだ。早速そのための糸を買ってきた。それからいろいろな模様を楽しみながら何枚か編んだ。

あるとき、この糸を教えてくださいました方が、「今度はスカートを編みでは？」と勧めてくださいました。かぎ針で長編み一段と細編み一段を交互に編むと、すっきりして、しかも編み目も拾いやすい。裏地も付けなく

ても大丈夫というので、安心して編んだ。履き心地もカッチリとして気持ちがいい。増し目で作ったフレヤーもきれいに出ているという。すっかりうれしくなつて、これも何枚も編んだ。

糸の太さ、何本取りにするか、糸の撚り方加減などが編みよさや、編み上がりの風合いを決めることも実感として分かってきた。そして当然色と色のコントラストも大切なことなので、色選びは売り場のいつもの方のアドバイスを受けた。

お勝手仕事をしながらラジオを聞いていたときのことである。

「樹や花には勢いが盛んなときと、盛りを過ぎて休眠状態に入つて、次の年のための準備をしているところがある。それはわたしたちの目には見えないところで、樹の内部で行われている。」という話をしていく。わたしは耳をそばだてた。放送の終わり、志村ふくみさんという女性、染織家、織りも手がけている人だと分かった。それから、志村さんの本を探し、読んでいくと素晴らしい話がいつばい出てくる。

たとえば、梅の木の場合、梅の花が咲き誇る時期ではなく、枝がほんのり赤みを帯び、蕾ができはじめる頃の枝を集めて、その枝を釜一杯に入れて煮出すと、

煮上がった液は底光りのする青みがかった琥珀色になる。その液に白糸を漬けると、糸は青みの淡い琥珀色に染まる。一方、集めた枝の大半は媒染用に焼いて灰を作る。その灰に熱湯を注ぎ、その上澄み液を取る。その灰液の中に、先ほど釜で枝を煮出して作った液に漬けて染めた糸を漬けると、次第に青みは消え、紅が差すような琥珀色に定着する。梅には梅の、桜には桜の媒染が最もよいのだと志村さんは書いている。これに対して、満開の花の時期の枝からは、同じような工程で糸を染めても、もう木の勢いは衰えて、美しい色にはならず、色あせたものになってしまう。

わたしにとつては、織りも、染めもまったく想像の世界でしかわからないのだけれど、草木染めの話、織物の話に興味はぐんぐん引き寄せられた。

どんな植物の、どの部分を、どの地域で、どの時期に採取するか。もつと細かく言えば、雨上がりが良いか、晴天続きが良いか、朝か、夕方かも含めて入念にその頃合いをはかり、採取したあとの処理方法や保存法にも注意をはらい、媒染剤としてなにを使えば、どんな色が染められるか。

織りにについても、地色の縦糸と横糸の基本の色を決める。織り込む横糸の何本かに一本、異なる色を入れることで、その布が生きも死にもする話。横糸は一色

か、多色か同系色か反対色か、織り込む糸の太さをわざと変えるなど、夢の中にまで糸と色とが追いかけてくるのだと彼女は云う。

植物で染めた布は山や野原や川といった自然の中にポンと置いても、周囲に溶け込んで違和感はないという。

わたしは和服を着るのが好きである。春、夏、冬の休暇、とくにお正月は着物を着るのが楽しみであった。母はいろいろな工面して、一枚の着物を姉からわたしへと縫い変えていた。わたしがとくにお気に入りだったのは、薄緑色の絹ちりめんの着物で、しゃっきりした感触も好きであった。その絹はお端折はしよりもなくなるほど毎年着ていたが、ある夏の終わりに、母が「これはもうなににも作り変えられないわねえ」と残念そうに云っていた。ところがお正月に、この絹をおひふとして縫い変えてくれたのだ。夏の絹をお正月に着るのは季節の「着合わせ違反」ではあるが、どのみち外出着として着るのではないので、母はおひふにしたのである。

〈ひふ〉というのは袂の無い道行コートというか。

母はその冬、新しい着物を縫ってくれたが、羽織まで作るには余裕がなく、仕方なくこの絹で間に合わせたのである。けれどもわたしは新しい着物より、このお

ひふのほうを喜んだので、母は思いがけないわたしの反応に驚き、ほっとしたのだと、かなりあとになって、この紹について母と話したとき、懐かしそうに話していた。

その後もわたしの各地方の、紬や大島や縮みなどにまつわる本をあれこれ読んでいた。横幅36センチほどのところに亀甲^{きっこうがかり}縞を30から60模様を織り込む織織名手の話も読んで驚いていた。

デパートで開かれた、「東京の伝統工芸展」で、八王子や東村山の機織りの実践コーナーがあり、立機^{たちばた}を見せていただいた。「イザリ機^{ばた}もありますか？」とお聞きすると、「もうイザリをなさる方はいらつしやらなくなりました」と仰った。「機を織ってごらんになりませんか？」とやさしい女性が言ってくださったが、さすがのわたしも、長^{おさ}をほんの少し動かすことさえ控えた。やってみたいのはやまやまでうずうずしていたけれど、後で1本の糸を反故することがどんなに厄介なことか検討がつくからである。

この工芸展でわたしが魅せられたのは、玉織^{たまお}りであった。手触りの柔らかなやさしさに満ちた、それでいて張りのある反物である。この織物を、仕立ててこの身に纏ったなら、どんなに着心地よく、わたし自身の中からやさしさを引き出してもらえないのではないかと思われるほどのしなやかさであった。もちろんわたし

にはとてもとても手を出せるようなお値段ではなかったが、こういうものに触れられたことだけでも満ち足りた思いだった。そして、わたしに「機織りをやってごらんなさい」と声をかけてくださった、あの上品で、しかも親しげに話しかけてくださった涼やかな声も忘れることができない。

そして、鈴木牧之の『北越雪譜』^{ほくえつせつぷ}を読んでいたとき

の衝撃!

小千谷縮^{おぢやちぢみ}といえ、夏着として最高の着物である。鈴木牧之はこの縮みを織る女性の逸話を書いている。

刺草科の多年草の苧^{かむじし}が2メートル程度に育ったら、茎を採取し、繊維を取って細く裁いて、それを繕り合わせる。このことを「苧績^{おぢみ}」という。この苧績した糸で織った布を灰汁^{あく}に漬けて水洗いし、雪上に晒して光沢を出す。苧はごく上品で、普通は麻を使う。この苧や麻の繊維が強く繕られ、その繕りが戻ることによって（縮み）となり、夏の涼感を作り出すのである。

『北越雪譜』で紹介されている17、8歳の娘が、この苧績から織まで端正込めて全一人でやりおさせた。さて、晒屋から母親が一反の白布を持ち帰った。娘は張り詰めた思いで開いて見ると、なんと錢の大きさほどの浸^しみができていた。娘は、この愛おしい縮みを顔に押し当て、母親の膝に泣き崩れた。以後彼女は

家の中を歩き回り、意味不明な言葉を呟き続けた。親も近所のものも、その心のうちを思いやつてはいるものの、どうすることもできなかつたという悲惨な話である。

成人が着る1着分の1反(およそ横36センチ、縦10メートル)の反物を織るには、苧績からはじまって布として仕上げるには、織りの部分だけでも2万4千484度も手を動かさなければならぬのである。

精魂込めて織った反物が灰汁に漬けられた段階か、恐らく雪上で晒している間に悲劇が起きてしまったのである。その「しみ」を最初に見つけた人の驚愕は大変なものであつたであろう。まして不可抗力とはいへ、実際に「しみ」をつけてしまった張本人がその失策に気づいたとしたら、その苦惱もはかりしれないと思う。縮みにかかわる人たちは、どの工程に携わっていても、皆手塩にかけて辛苦していることを充分承知しているからである。

気づいているか、気づかぬふりをするかはともかく、この娘に負い目を背負つて生涯を過ごした人にもいるにちがいない。

事柄の大小、形は違いながらも、多くの人はそんな胸の痛みをひとつぐらいは心に秘めているのではないだろうか？

東京漢点字 学習会報告

東京漢点字羽化の会 菅野良之

平成23年度 第5回(第51回) 報告

1 日時 平成23年8月20日(土)

17時00分～19時00分

2 場所 ヒューマンプラザ7階 第1会議室

3 出席者(省略)

4 使用教材

漢点字講習用テキスト初級編 第四回(全十回)

漢点字編、墨字編

5 配布物 機関誌『うか』第87号 2011年8月

6 学習会内容

・前回の復習

(71) 「質^{●●●●}」 斤(才下がり…3・5の点)と

貝(才下がり…3・5の点)で表す。

(72) 「所^{●●●●}」 戸(ト…2・3・4・5の点)

と斤(才下がり…3・5の点)で表す。

(73) 「折^{●●●●}」 手偏(テ…1・2・3・4・5

の点)と斤(才下がり…3・5の点)で表す。

(74) 「純^{●●●●}」 糸偏(イ…1・2の点)と屯

2011年9月21日(木)

(フ・1・3・4・6の点)で表す。

・今回の学習

5 複合文字(2)

4. 第1基本文字と比較文字で構成される文字(4)

※ 「升」(4・5の点とク・1・4・6の点)「をパーツとして含む文字1つ。

(75) 「昇」(リ下がり・2・3・6の点)と升(ク・1・4・6の点)で表す。字式は日／

升。音読みのシヨウは漢・呉音。熟語に「昇天」「昇り竜」地名に「昇仙峡(山梨県)」がある。

※ 「丘」(ク・1・4・6の点と4の点)「が含まれる形の文字2つ。

(76) 「兵」(ク・1・4・6の点)と八

(リ・1・2・5の点)で表す。字式は丘／八。音読みのヘイは漢音、ヒヨウは呉音。訓読みに「いくさ」がある。熟語に「番兵」「兵器」「徴兵」「拳兵」

「義勇兵」「伏兵」「兵法」「用兵」「大兵(おおつわもの…多数の兵士)」「馬兵(うまつわもの…騎兵)」「騎兵隊／奇兵隊」「尺兵(せきへい…短い刃物)」「兵児帯(へこおび)」「飲兵衛」「名無しの

権兵衛」、地名に「兵庫」などがある。

(77) 「浜」(ニ・1・2・3の点)と兵(リ・1・2・5の点)で表す。字式はさん

ずい十兵。音読みのヒンは漢・呉音。旧字の「濱」の訓は「まどろむ」となる。熟語に「浜辺」「浜千鳥」「浜茄子」「浜姫(はまひめ…海辺に住む女性。あま)」「墨濱(ぼくひん…隅田川岸一帯の雅称)」、地名に「浜松」「浜名湖」「美浜」など、名前に「浜田」「高浜」「浜村」など多くある。

※ 「斗」(4・5の点とト・2・3・4・5の点)「をパーツとして含む文字1つ。

(78) 「科」(ノ・2・3・4の点)

と斗(ト・2・3・4・5の点)で表す。字式はノ木偏十斗。音読みのカは漢・呉音。熟語には「科料(かりよう、とがりよう)」「教科書」「金科玉条」「百科

科(ほしな)」「山科(やましな)」「保科(ほしな)」「犯科帳(奉行所の判決記録)」「せりふ」に「科白と台詞」がある。

※ 「勺」(4・5の点とモ・2・3・4・5・6の点)をパーツとして含む文字1つ。

(79) 「約」(イ・1・2の点)と勺

(モ・2・3・4・5・6の点)で表す。字式は糸偏十勺。音読みのヤクは漢・呉音。訓に「ちかう」がある。熟語に「条約」「確約」「規約」「協約」「婚約

「集約」「約款」「成約」「違約」「解約」「綽約(しゃくやく…姿のしなやかでやさしいさま)」「新

約・旧約（聖書）”など。

※「垂」(2・5の点とニ・1・2・3の点)を
パーツとして含む文字一つ。

(80) 「睡」 目(メ・1・2・3・4・5・
6の点)と垂(ニ・1・2・3の点)で表す。字式は
目下垂。形成文字。音読みのスイは漢音。熟語に「昏
睡」「熟睡」「睡気(ねむけ、一般には眠気)」「微
睡(まどろみ)」などがある。

平成23年度 第6回 (第52回) 報告

1 日時 平成23年9月10日(土)

18時30分〜20時30分

2 場所 ヒューマンプラザ7階 第1会議室

3 出席者(省略)

4 周知事項

学習会日程

10月22日(土) 18時30分〜

11月19日(土) 18時30分〜

12月17日(土) 17時〜

5 使用教材

漢点字学習用テキスト初級編

第四回及び第五回(全十回)

6 学習内容

・前回の復習

5. 複合文字(2)

4. 第1基本文字と比較文字で構成される文字(4)

※「升」(4・5の点とク・3・4・6の
点)「部首として含む文字一つ。

(75) 「昇」 日(リ下がり・2・3・6の
点)と升(ク・1・4・6の点)で表す。

※「丘」(1・4・6の点)「が含まれる形の
文字二つ。

(76) 「兵」 丘(1・4・6の点)の下に数
字の八を置いた形で表す。

(77) 「浜」 さんずい(ニ・1・2・3の
点)と兵(リ・1・2・5の点)で表す。

※「斗」(5・6の点とト・2・3・4・5の
点)「を部首として含む文字一つ。

(78) 「科」 ノ木偏(ノ・2・3・4の点)
と斗(ト・2・3・4・5の点)で表す。

※「勺」(4・5の点とモ・2・3・4・5・
6の点)「を部首として含む文字一つ。

(79) 「約」 糸偏(イ・1・2の点)と勺
(モ・2・3・4・5・6の点)で表す。

※「垂」(2・5の点とニ・1・2・3の
点)「を部首として含む文字一つ。

(80) 「睡^{●●●●}」 目(メ^{●●●●} 1・2・3・4・5
6の点)と垂(ニ^{●●●●} 1・2・3の点)で表す。

・ 今回の学習

初級編第五回

6 基本文字(4)

発音文字と漢数字

1. 発音文字とは仮名点字と同じ読みで表される文字

(1) 「円^{●●●●}」 (エ^{●●●●} 1・2・4の点とシ^{●●●●} 3

・ 5・6の点)で表す。円(円構え)の中に、上の線の真ん中から短い縦の線、その下に接して両側の縦の線に差し渡すように横線を置いた形の文字。字式はなし。"まるい、まろやか、まどか"とは角の取れた形、引っかけがらないこと 穏やかな様、障害のない様を表す。熟語には"円満" "円周" "円滑" "円蓋(ドーム)" "円盤投げ" "関東一円" など

(2) 「鬼^{●●●●}」 (オ^{●●●●} 2・4の点とニ^{●●●●} 1・2

・ 3の点)で表す。大きな頭をした亡霊を象った文字。おにとは死者のこと。あるいはあの世で死者を苛むもの。人力を肥えた力を持つて人に害を与えるもの。鬼籍に入るとは人が死んで死者の世界に入ること。熟語には"鬼面" "鬼籍" "悪鬼" "幽鬼" "鬼瓦" "鬼の居ぬ間の洗濯"

(3) 「告^{●●●●}」 (コ^{●●●●} 2・4・6の点とク^{●●●●} 1

・ 4・6の点)で表す。土の左肩にカタカナの「ノ」

を置き、その下に「口」を置いた形。白川先生によれば「土」の形は祭壇を象った物。「口」は神様のお告げに従う事を誓う祝詞の入った器を表す。すなわちこの文字は神様のお告げを聞く姿を象ったもの。熟語には"告知" "報告" "通告" "忠告" "申告" "広告" "公告"

(4) 「事^{●●●●}」 (コ^{●●●●} 2・4・6の点とト^{●●●●} 2

・ 3・4・5の点)で表す。計算に使う竹の棒を竹筒に入れて、それを役人が手に持った形を象った文字。「こと」とは出来事や物事と、抽象的な意味を表す。熟語には"事実" "事件" "事物" "事象" "事故"

"幹事" "監事" "用事" "家事" "俗事" "雑事" "仕事" "出来事" "物事" "荒事" "事始め"

(5) 「生^{●●●●}」 (セ^{●●●●} 1・2・4・5・6の点

とイ^{●●●●} 1・2の点)で表す。漢数字の三の真ん中に縦線を重ねて、上は上の横線から突き出て、下は下の横線で止まる形。上の横線の左肩にカタカナの「ノ」を添えた形。春、土の上に植物の芽吹いた形、生命力の漲った形を象ったもの。熟語には"生命" "生氣" "生活" "生存" "生誕" "生物" "生産" "発生" "一生" "先生" "一年生" "生け花" "生け垣" "芽生える" "誕生日" "生ビール" "灘の生一本" "生い茂る"

「報告とご案内」

一 会員の募集

これまででは、約五年に一度のペースで、会員募集のための講習会を開催して参りました。募集広告は各新聞にお願いして、掲載していただき、講習会終了後、受講者の皆様にご入会いただきました。

ところが残念ながら各新聞では、無料広告の紙面を縮小して、新聞を通しての募集ができなくなりました。

この二月に東京で、NHKボランティアネットのサイトをお願いして、ネット上で新会員の募集をしていただいたところ、誠に熱心な皆様にご参集いただくことができました。

そこで横浜でも、同様の企画を立ててみた次第です。

① 横浜で

既報の通り横浜漢字羽化の会では、この十月五日から、新しい会員を募集するための、講習会を開催しております。

NHKボランティアネットのサイトをお願いして、募集広告を掲載していただきましたところ、幸いにし



て、ご応募いただくことができました。そこで企画通り、以下の要領で、講習会を開催することに致しました。

日程と会場は以下の通りです。

日時と会場…

(1) 10 / 05 (水) 14 : 00 ~ 16 : 00

市社会福祉協議会ボランティアセンター 8F

ボランティアコーナー

(2) 10 / 21 (金) 14 : 00 ~ 16 : 00、同

(3) 11 / 04 (金) 14 : 00 ~ 16 : 00

市社会福祉協議会ボランティアセンター 9F

テープ受発送室。

② 東京で

東京では、来年早々に、同様の要領で、会員募集の講習会を企画する予定です。詳細は次号にて。

二 『漢字紹介』

本誌・今号が九回目となるこの連載も、次号で終了します。不備も多々ございますが、小冊子にまとめた

いと考えております。改めてご覧賜れば幸いです。

漢文のページ

セミと小バト 莊子

蝮 与 鷺 鳩、笑 之 曰、

「我 決 起 而 飛、搶 榆 枋、

時 則 不 至、而 控 於 地、而

已 矣。奚 以 之 九 万 里 而

南 為 。

適 莽 蒼 者、三 澮 而 反、

腹 猶 果 然。適 百 里 者、

宿 春 糧。適 千 里 者、三 月

聚 糧。之 二 虫、又 何 知。

『莊子』逍遙遊篇より ③

蝮 与 鷺 鳩 二 「蝮(ちよう)ト鷺鳩(かくきゆう)与(と)」

搶 榆 枋 二 「榆枋(ゆぼう)ニ搶(つ)クニ」と読む。

控 二 落下する。澮 二 食事をす。

果然 二 腹がふくれた状態。莽蒼 二 郊外の草地。宿 二 出発の前の夜。二虫 二 蝮と鷺鳩を指す。

(前号の空高く飛ぶ鵬の話より続く)

蝮(ちよう)と鷺鳩(かくきゆう)とこれを笑つて曰く、「我、決起して飛び、榆枋(ゆぼう)に搶(つ)くに、時として則ち至らずして、地に控(おちて)已(や)む。奚(なんぞ)九万里に之(ゆ)きて南するを以て為さん」と。

莽蒼(もうそう)に適(ゆく)者は、三澮(さんそん)して反(かえる)も、腹猶(な)お果然(な)たり。百里を適(ゆく)者は、宿(ゆう)べに糧(か)を春(つく)く。千里をかけて適(ゆく)者は、三月(さんげつ)糧(か)を聚(あ)つむ。この二虫(にちゆう)又(また)何を知らんや。



思い切つて高い木に飛びついても、時には届かずに落ちてあきらめるのに、何で九万里も高く舞い上がり南へ飛んでいこうとするんだ、と笑う蟬と小鳩。

近くへ出かけるだけの者は三度の食事も十分だが、百里をゆく者は前夜から穀物を春いて支度をし、はるか千里をゆく者は三月も前から食糧の確保をするのだ。笑う彼らに鵬のことなど分かるはずもない。

(笑われるのは、自分たちだけの小さな物差しでしか思いはかることのできない、彼らの方である。)



蝸 ト 与 鸞 鳩、 笑 ツテ 之
 ヲ 曰 ハク、 「我 決 起 シテ 而 飛 ビ、
 搶 クニ 楡 枋 ニ、 時 トシテ 則
 チ 不 シテ 至 ラ、 而 控 チテ 於
 地 ニ 而 已 ム 矣。 奚 ゾ 以 テ
 之 キテ 九 万 里 ニ 而 南 スルヲ 為 サ
 ン」 ト。

適 ク 莽 蒼 ニ 者 ハ、 三
 シテ 而 反 ルモ、 腹 猶 ホ 果 然 タリ。
 適 ク 百 里 ヲ 者 ハ、 宿 ベニ 春
 ク 糧 ヲ。 適 ク 千 里 ヲ 者
 ハ、 三 月 聚 ム 糧 ヲ。 之 ノ 二
 虫、 又 何 ヲカ 知 ランヤ。

～ にすい+食 そん

『 莊 子、 そ う じ 』

逍 遙 遊 篇、 し ょ う よ う ゆ う へ ん よ り



参照図書：『朗読してみたい中国古典の名文』
 渡辺精一（祥伝社新書）

※「飡」（にすい+食 そん）は、JISにないWindowsの外字です。



漢点字講習用テキスト

初級編 第二十八回

5 複合文字 (2)

1. 第一基本文字と比較文字で構成される文字 (1) (承前)

(7) 春 ☺☺☺ シュン はる

漢数字の「三 ☺☺☺」に「人 ☺☺」の字を重ねた形、その下に「日 ☺☺」を置いた形の文字です。この文字の上の部分、元は「屯 ☺☺☺」で、植物の芽が萌え出そうとする様子を表すものです。その下に「日 ☺☺」を置くことで、なお暖かい、生命が活発に動き出そうという気運を表しています。「はる」は、寒く暗い冬を過ごした後の、新たな期待を持った、希望に満ちた、新しい年の始まりを意味しています。旧暦では一月が、春の季節の始まりです。現在私たちが使っている太陽暦の春は、三月からです。エネルギーに満ちて生命が活発に動き出すことから、人生の躍動期、若さに溢れている時期にも喩えられます。漢点字では、「三」と「人」が重なっている形を横の線三つの「大」と捕らえて、「☺☺☺ (大)」と「☺☺ (日)」で表されます。

「春夏秋冬」「春秋戦国時代」「春眠暁を覚えず」「春宵一刻値千金」「春愁」「青春」「春は曙」「春一番」「春日 (かすが)」

・「因」とそれを部首として含む文字一つ。

(8) 因 ☺☺☺ イン よ - る ちな - む ちな - みに

「国構え」の枠の中に、「大 ☺☺☺」を置いた形の文字です。敷物の上に人が手足を広げて横たわった形を象っています。何かを下地にしてその上に加えるという意味を表します。「いん」は、「原因、要因、素因、等」と用いられます。「ちなむ」とは、ある縁によって何かをなすことで、「ちなみに」とは、それに関連して、ついでに言えばの意味に用いられる接続詞です。漢点字では、「☺☺☺ (国構え)」と「☺☺☺ (大)」で表されます。

「因縁」「因果応報」「因果関係」「因果律」「原因」「要因」「素因」「誘因」「病因」

(9) 恩 ☺☺☺ オン いつく - しむ

「因 ☺☺☺」の下に「心 ☺☺」を置いた形の文字です。「因 ☺☺☺」は、下地に何かを重ねることを意味する文字です。「恩 ☺☺☺」は、「心 ☺☺」に何か



を加えること、よい印象を与えることという意味があります。“おん、と読んで、親の恩、先生の恩、先輩の恩等と用います。漢点字では、「𠄎 (因)」と「𠄎 (心)」で表されます。

「恩人」「恩恵」「恩師」「恩情」「天恩」「謝恩会」

・「央𠄎𠄎」とそれを部首として含む文字一つ。

(10) 央𠄎𠄎 オウ なか-ば

「大𠄎𠄎」の横棒の上に、縦棒を跨ぐように、四角い枠をはめた形の文字です。四角い枠は、首かせを象った形で、「大𠄎𠄎」の字は、人が手足を広げた形です。人が手足を広げたところに、首かせをはめた形を象っているのが、この文字です。神様に捧げられた犠牲とも、外に向かつての魔除けとも言われます。漢点字では、「𠄎 (大)」と、音の“おう、の「𠄎」で表されます。

「中央」

(11) 英𠄎𠄎 エイ はな はなぶさ

「草𠄎冠」の下に「央𠄎𠄎」を置いた形の文字です。真ん中が窪んだ花を表しています。“英雄、とは、華やかな花から、優れたもの、秀でたものの意味の熟語です。人名に用いられるときは、“ひで、と読まれることがしばしばです。また華やかなことから、かつて最も繁栄した国、イギリスを指す語に当てられました。漢点字では、「𠄎 (草冠)」と「𠄎 (央)」で表されます。

「英雄」「大英帝国」「英語」「英会話」

※「天𠄎𠄎」の上に点が二つ付いたものを部首として含む文字二つ。

(12) 関𠄎𠄎 カン せき かか-わる

「門𠄎構え」の中に点が上に二つ付いた「天𠄎𠄎」が置かれた形の文字です。両開きの門に、かんぬきをかけた形を象ったものと言われます。“せき、は、国境に設けられた門で、何時も閉ざされています。そこで通行人を改めます。平安時代から江戸時代を通して、「逢坂関、安宅関、箱根関、白河関」が有名です。“せき、では、相撲の最上位とその次を「大関、関脇」と呼んで、幕内の力士を“せきとり、と呼びます。“かかわる、と読んで、一つのものとの別のものとの繋ぎ目、人と人との関係を表します。ものともとの繋ぎ目ということから、身体の運動器の繋ぎ目、肘や膝を、「関節」と呼びます。漢点字では、「𠄎 (門構え)」と「𠄎 (天)」で表されます。

「関東」「関西」「関門」「関節」「人間関係」「白河関」「関わり合い」

編集後記

▼「ご報告」ページにありますように、この度会員募集のための講習会が開催されました。

その講習会募集の広告は、NHKボランティアネットを利用することになりましたが、実際のところこれを見て応募して下さる方が本当にいるのかと、心配でなりません。このサイトを見て下さって応募された方は、それなりに点字に関するボランティアでもしてみようかと、かなり明確な目的を持っておられたのでしょうか。そうではないとこういう情報が目につくことはありません。▼最初にこのサイトに講習会の情報が載ってまもなく、3人ばかりの人から連絡が入りました。しかし、それ以後はぱったりとなくなり、締切間近になってトップページに載せていただくことができず、これが1週間続きました。最後に時間切れと思われる頃、もう1人の応募者が現れましたが、最初の3人のうち2人は都合が悪くなってキャンセル、結局2人が最終的な受講者となりました。ただ、講習をする側にとってはこれは非常にありがたいことで、個人指導のような形で講習をすることができ、その効果も上がりやすいということです。

(木下 和久)

(有) 横浜トランスファ福祉サービス

障害者自立支援法の下、障害者にガイドヘルパーを派遣して、外出を支援しています。対象は、横浜市在住・在宅の、視覚・肢体・知的重度障害者。

常時募集・ガイドヘルパー：資格・ホームヘルパー2級以上、および視覚・肢体障害者移動介護研修修了。

業務概要：上記障害者の外出支援。詳細は担当・柳田まで。



〒231-0063横浜市中区花咲町1-46-1

GSプラザ桜木町1104

電話： 045-263-0306

FAX： 045-263-0316

E-MAIL (岡田健嗣) : okada_tr_eib@ybb.ne.jp

横浜漢点字羽化の会 URL : <http://www.ukanokai-web.jp/>

《表紙絵 岡 稲子》 次回の発行は12月15日です。

※本誌(活字版・DAISY版・ディスク版)の無断転載は固くお断りします。